

[別紙－１] 概要文

沖縄におけるITSスポットサービスの社会実験について

道路管理課 ◎米須 勇
仲間 文昭
○福地 友博

1. 目的

I T S (高度道路交通システム) は、最先端の技術を用いて人と車と道路とを一体のシステムとして構築し、交通事故、交通渋滞、環境悪化などの道路交通問題の解決を目指すもので、国土交通省は次世代の道路「スマートウェイ」の展開を官民一体で推進しており、I T S スポット通信による新たなスマートウェイサービスについては、広域なルート案内や安全運転支援等の情報提供サービス、S A ・ P A 等におけるインターネット接続等の情報接続サービス及びプローブ情報の活用によるより正確な道路交通情報の提供などが見込まれている。

一方、I T S スポット通信サービスについては、個々の開発・実験は実施されているものの、本格運用にむけた運用管理の課題や整備効果等について十分な知見を有しておらず、これらの検証や方針等を明らかにするため、スポット通信サービスの展開に関するI T S 社会実験を実施している。

全国では社会実験の一環として高速道路上を中心にI T S スポットの整備を行っており、2011年8月までに約1,600箇所サービスが開始されています。

沖縄でも2011年3月末から沖縄自動車道上に整備したI T S スポット5箇所、安全・快適に走行できるような情報提供を開始している。

2. 内容

社会実験のモニター（物流車両等20台、レンタカー10台）へのアンケート（3回）・ヒアリング（1回）や県外の沖縄観光経験者（500名）へのWebアンケート等により沖縄自動車道に設置されている5基のI T S スポットで提供されているサービスの効果検証及び改善策の検討を実施した。

また、沖縄の地域特性を考慮したI T S スポットの一般道（直轄国道）への展開及び提供内容を検討を実施した。

3. 結論

3－1. モニター調査結果

- 1) I T S スポットサービスの認知度は全般的に低い。
- 2) 方面別道路交通情報についてはレンタカーモニター／一般（Web）[県外]に比べて、土地勘のある一般モニター[県内]の方が必要性が高い。また、時間の経過とともに有効性が向上。
- 3) 安全運転支援情報については必要性、有効性の評価が全般的に高い。特に実体験者は全て必要、役立つと回答。
- 4) 休憩施設案内情報については必要性、有効性の評価が他サービスに比べて低い。本線上での情報提供の要望やS A ・ P A の混雑状況や駐車場の空き状況などの付加的な情報ニーズも有。

3－2. 一般道（直轄国道）への展開及び提供内容の検討結果

- 1) 「円滑性の確保」の観点
①事前／特殊通行規制区間の迂回路との分岐手前、②高速道路の迂回路手前（高速インター出口手前）、③津波浸水区間への侵入を防止できる分岐の手前
- 2) 「経路選択支援」の観点
①経路選択が可能な主要結節点手前、②高速インター入口手前
- 3) 「観光支援」の観点
①地域の情報発信拠点（主要な道の駅内）
- 4) 「プローブデータの収集」の観点
①管内のプローブデータが網羅的に収集可能な間隔で設置。

4. 今後の課題

- 1) I T S スポット対応カーナビの普及
- 2) 一般道（直轄国道）へのI T S スポット設置について交通管理者との調整が必要。
- 3) 道の駅等での地域情報の発信については、地域の方々と連携し、持続可能な情報発信の体制作りが必要。